

¡Hola, amigos!

第063号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、日本の友人・知人の皆さんに私達の近況をお知らせする手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は、なるべく毎週、日本時間の金曜朝05:00から07:00時に実施する予定です。臨時休刊の場合は前もってお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。

2005年02月24日 カアディスにてR y N

☆今週号のトップヘジャンプ



今週号 NO. 063 (2005年・第09週) 02月24日 更新

「浜・早春」の巻

♪春は名のみ・・・♪と言いますが、立春を過ぎても日本の春はまだ本格ではないのでしょね。スペインでも北の地方はまだ厳しい寒さに閉じ込められているようでTVの映像で見るそこはまるで墨絵の世界です。けれども、カアディスの浜はもうすっかり春の気配。日によって、北風や西風が吹くとササガに空気は冷たいですが、日中の浜は短パンTシャツの人がめっきり多くなっています。中には早くも水着になって海に入ったり、熱く焼けた砂の上に寝そべて甲羅干しをする人もチラホラ。

*

先週は少々不手際があり、定期更新日の木曜夜にアップロードできなかったばかりか翌日大急ぎでアップしたものの一部が不完全だったようで、大変ご迷惑をかけてしまいました。この辺が何も分からぬままやっているのがバレバレのところですよ。

PCをいじっていると、〇〇しますか?というような問いかけが良く出てきますね。その答えが「はい」と「いいえ」の二者択一ならそれほど難しいことはないんですがそれに加えて「すべてはい」、「すべていいえ」なんていう四者択一になると、もう分かりません。なんじゃこりや、です。

「すべてはい」や「すべていいえ」なんて果たして日本語だろうかと思ってしまいました。「いいえ」と「すべていいえ」にどういう違いがあるのか?

空き容量を少しでも増やそうと、不要のアプリケーションをアンインストールしてゆく過程で、「共有ファイルを削除しますか?」という問いがあり、その答えが上記の四者択一になってるんですねー。コレに見事に引っかかりました。

そう聞かれている限り、削除してしまつたらまずいことになるだろう、ぐらひはオボロゲながら分かりますから「はい」ではなく「いいえ」のボタンを押したんです。

しかし、これが大間違い。あとで色々良く調べてみるとここはただの「いいえ」ではなく、「すべていいえ」でなければならなかつたようです。

それならいっそのこと「すべてはい」と「すべていいえ」だけ用意したらドーダ!と

思ってもあとのマツリ。こういう問答が明快に判る人はどういう人なんでしょうね。私達には全く不可解。「いいえ」という答えが意味するところは、大部分「いいえ」だけれど、「はい」の要素も一部ある、という事なんでしょう。多分。

「いいえ」と答えたのに、削除されてしまった部分があるからこそネット接続が出来なくなったことは確かです。不思議な日本語ではあります。もっとも、昔は「いやよいやよも・・・」という言い回しもありましたね。ンなこと今は言わない、か。とにかく、アンインストールしたアプリケーションを、一旦全てインストールしなおして、もう一度アンインストール。今度はワケのワカラン問答が出たら全て「すべていいえ」で片付けてセーフ。無事復活しました。否定疑問文と同じ。「ノー、アイ・ドント」「いいえ」の繰り返し。会話の途中でつい「イエース」と言ってしまう日本人の悪い癖を目の当たりに見せられた思いです。「イエース、ノーノー」なんてね。

*

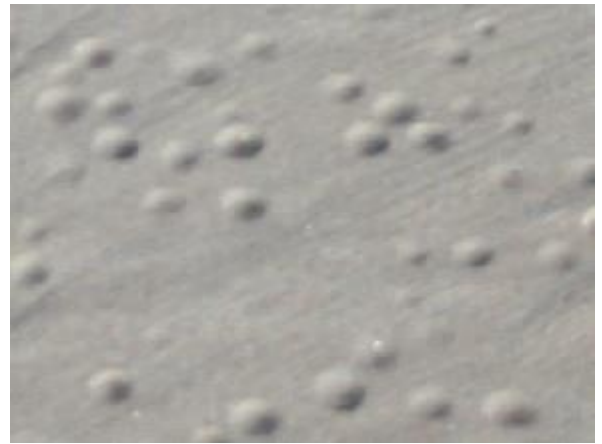
ところで、先週のタイド・プールの項の浜の遠景写真が何となくボンヤリしている事にお気づきだったでしょうか。決してカメラが替わったのでもなく、カメラマンが酔っ払っていたわけでもありません。

春霞といってもいいくらい、空気の透明度が真冬のそれとは明らかに違います。空の青も、海の青も冬のように澄み切ってはおらず、何とはなしにモヤっとしています。暖かくなってから、潮の引いた渚を歩いていると次のようなものを良く見かけます。これ、ナンでしょう？ この下に何かいる事は確かですが、それが何か私達には分かりません。Rは山の子、Nはどちらかという町の子、二人共子供の頃浜辺で遊んだことはないのです。どなたか元海の子だった方、教えて下さい。何か腹の足しになるものがあるのかどうか？ もしそうだったら、どうやったら獲れるのか??

モンブランみたい、と言ってる人もいますが、どーもネー。モンブラン、好きな方、ごめんなさいネ。



もう一つ、日差しが強くなって暖かさが増してからの渚で気がついたものはこれ。



こんなふうなドラ焼きふうの盛り上がり、潮が引いたばかりのまだ湿っている砂浜のアチコチに大小様々。そうですねー、大は直径10センチ、小は4～5センチのも

のがアル所には無数に、ないとなったら全然ナシという具合。

コレも私達がこれまで見たことのないものでした。そーっと割って見ると、中には何に

もナシのからっぽ。色々考えて見ました。これはナニカ？

私達の結論はこうです。これが見えるところは砂に少し泥が混じっているらしい。要するに湿った砂にはチョット粘性があるのではないか。そして波打ち際には波が砕け

た時この砂と泥の混じったものに空気が入り込む。そのうち潮が引いて砂の面は平らに落ち着くけれど表面下には空気の泡が残っている。泥の粘性のために空気が逃げ切っていないんですね。そのうち強い陽光に照らされてこの空気の泡が膨張してドラ焼きの出来上がり。どうでしょう、当らずとも遠からじと思っているんですが・・・。

少なくとも腹の足しになるようなモンじゃないことは確か。



自然の砂の造形も面白いですが、暖かくなってくると元気になってくるものの一つ、

ヒッピー・アーティスト、ストリートではミュージック、浜では砂の彫刻。

一番手前のはまだ未完成ですが、ナカナカ上手ですね。恐竜の顔に表情が有ります。

右端に見える白いものは小銭を受けるためのシート。

プロの流しのようにしつこく小銭をせびらない所がいいです。ベナルマデナにいたと

きは、マロキ(marroquí=モロッコ人)の流しの煩く雑な演奏には悩まされました。

商売なんだから小銭をせびるのは仕方がないとしても、もうちょっと熱の入ったとい

うか、自らが楽しんで演奏してくれれば、下手でもガマンできるのに。

とにかく雑。しかも巧みに雑に端折る。勝手にメロディーはいじくる。全く聞くに堪えない演奏です。その上曲を始めると、すぐ銭集めを始めるんですね。早回りで手っ取り早く稼ごうという魂胆がミエミエです。そして、気前のいい客がいないと見ると

曲の途中でも適当に端折ってさっさと終わりにしてしまうんです

アノ界限で外食するのが厭になった原因の一つは彼らのしつこさ。一回食事すると、必ず三組も四組もまわってきて代わり映えのしない曲ばかり。なぜか多くはシェリト・リンド。こんなのにムサイ帽子なんぞをニュッと突き出されたら、オープン・エアーでのランチを楽しんでいるイイ気分もだいなしです。

どうやらマロキの「流しシンジケート」みたいなものがあって、元締めが同じ指導をするらしく、曲の崩し方までみんなオンナジ。たとえコイン一個だってやりたくなくなるような輩。身なりもクサソーな奴等ばかり。

ベナルマデナでは周年こういう連中がうろつきまわっていました。彼らにとってカモになる外国人も周年いるからです。一階だった私達の部屋は、同じビルの地上階にも回りのビルにも外国人向けバアルが軒並みで、窓を開ける季節になると厭でも彼らの

アコーディオンとタンバリンが毎日煩く聞えてウンザリでした。

カァディスでも夏になればそれに近い流しがやってくるんでしょうが、客の少ない今はまだ見当りません。今見かけるのはストリート・ミュージシャン。彼らとマロキの流しの決定的な違いは、彼ら自身が自分の演奏を心から楽しんでいる様子。それと小銭を集めてまわるのではなく、自分の前に蓋を開けた楽器のケースなどを置いてあるだけ。ニュッと手をだして脅すような目付きで物乞いをするのではなく、この演奏が気にいったら、よければ・・・というわけ。客と対等です。ホコリがある。

このクラリネット吹きもそういう一人。楽団員が修行としてやっているのか？

全身黒ずくめで、いい場所は人に取られたのか、わざとなのか、春だというのに日の当たらない路地裏で、クラリネットにしてはごくごく静かな曲を一人ヒソソリ吹いています。クラリネットの先に小さな譜面が付いてますね。自分勝手にメロディーをいじるなんてことは彼の頭にはないのでしょうか。虚無僧にも通じるものを感じます。

通りかかる人が小銭を入れようが、無視されようが我関せず。自分の演奏に聞きほれているみたいな様子。彼にとっては春の到来などどうでもいいのでしょうか。



ところで突然ですが、私達は三月末から暫くの間一時帰国します。二人共ガタのきた歯の治療が主な目的ですから、物見遊山ナシのケチケチ旅行です。歯科医の近くにマンスリー・マンションを借りて治療に専念するつもりです。治療期間は大体2ヶ月を見込んで3ヶ月間有効な航空券を買いました。

日本へつく頃はそろそろ桜とタケノコの時期で楽しみです。掘りたてのタケノコは私達が一番懐かしい、ニッポンの、ニッポンだけの、味のような気がします。そういうわけで、このHPもあと三週、3月10日号迄でまた休刊とさせていただきます。宜しくご了解ください。

なお、再刊はあくまで歯の治療次第ですが、スペインに帰って来たら早々にスタートしたいと思います。出来れば6月中にも、と思っています。

その頃は二人共入れ歯になっちゃっているかも知れませんが、でも活字でのオシャベリですから、モルこともないでしょう。お聞き苦しくはないのが救いです。***

「チョリソ」の巻

日本ではビヤホールなどのおつまみに登場するチョリソ又はチョリソー。普通チョの部分強く発音しますね、でも、もともとコレはれっきとしたスペイン語でチョリソ(chorizo)です。「i」にアクセントが有ります。

例によって西和を引くと次の通りです。「①チョリソ、香辛料のきいた腸詰。②こそ泥、すり、置引き、詐欺師、たちの悪い男、恥知らず。」と段々悪くなります。さらに「③(綱渡りで使う)バランス棒。④(壁の塗り替え用の)わらを混ぜた壁土。」と続きます。

一方、英和では、トウガラシ・ニンニク等の香辛料を効かせたポークソーセージ(スペイン語)。英語国民にとっても外来語である事が分かります。広辞苑では、スペインの豚肉粗挽きソーセージ、唐辛子・ニンニクなどの香辛料を効かせる。

今日のお話は勿論この豚肉ソーセージのことで、詐欺師なんかの話ではありません。私達の記憶にある日本のビヤホールで出てくるもの又は日本のスーパーで普通に売っている国産のものは、チョット唐辛子が効いてピリっとしてるかな? ぐらいのゴクおとなしい味だったと思います。

ところが、スペインで最初に食べたチョリソは強烈で、ヒューっと言うほどのものでした。唐辛子でもなくニンニクでもない、その両方を合わせただけでもない、かなりのクセモノ。辞書で「・・・などの香辛料」といっている「など」がどんなものか知りたいと思いますが、どのチョリソのラベルにもそんなことは詳しく表示してありません。全般にスペイン産の食品表示には不明確な部分が多くて、こんなことでEU規準をクリアできるんだらうかと気になるくらいです。

私達は得体の知れないものを買ったら、しつこく辞書で隅から隅まで調べまくりますが結局わからないことが多いんです。それは私達の語学力の問題ばかりではなく表示が徹底していないためでもあるんです。このチョリソにしたって、一番上にでかかかか書いてあるのは「アストゥリアスの味」。アストゥリアスとは北海岸に面した地方で、畜産・酪農の盛んなところ。オラが国サの味という事でしょう。



肝心のイングredientes (ingrediente=材料)の部分を見ると、豚肉・牛肉・パプリカ・食塩・ニンニクそしてオレガノ。私達の味覚では、いやいやトテモそんな生易しいものではないでしょう、と言う感じです。この写真のものは四割位食べちゃった後ですが比較のおとなしい。なかにはホントニ強烈な主張のあるものがあります。冷蔵が必要な物から常温保存の物まで、見た目も普通のソーセージと余り変わらないものから全面白い粉(カビか?)に覆われたもの。もう大変な種類です。全国で一体何種類出回っているのか？ 私達が手軽に買えない、スーパーなどに出回らない、或る地方限定の小さいメーカー、ホーム・メイド的なものもあるのでしょうか、恐らくトータルでは何百という数になるのでしょうか。私達が最初に手を出したのはどんなのだったか？ 多分常温保存のものだったと思います。



そのクセの強さには最初チョット怯んだ事は確かですが、そのクセが不思議とビイノ
にマッチすることを発見してから、ちょっとこのクセの強さを見直しました。
そして、ゴク普通のスーパーにも10数種類以上があるチョリソも、いろいろ食べて
みると夫々に個性があることが分かってきました。そこが材料成分などに表示され
ていない部分の違いなんでしょうね。

私達が今気にいっているのは上の写真のもの。ちょっと見にくいですが真中に金文字
で IBERICO とプリントされているのがお分かりでしょうか。コレが一番うまいとさ
れるイベリコ種という黒豚の肉を使っているよ、という事です。いつかハモン・セラ
ーノのお話をしたとき、ドングリの実を食べさせた豚のハモンが一番という事を紹介
しましたが覚えておいでですか？ そういう黒豚はカァディスの北、ウエルバ県のハ
ブゴ(Jabugo)という所が本場だそうです。上のものはそれほどのものではなく普通の
黒豚かもしれませんがナカナカいいです。233g、1.81ユーロという値段も嬉し
いじゃないですか。私達の食べる量は二人で一本、ソレダケで充分。

そんなチョッピーをどうやって食べるかって？

マズ、2ミリぐらいの厚さで小口切りにします。コレをフライパンに少量のオリーブ

油、ゴク低温でカリカリに焼きます。それから更にその一枚を四分の一に銀杏切り。こんなに小さくても銀杏というんでしょうかねー。こうなると一片一片が二分の一平方センチぐらいになってしまいます。これがイインです。

健康の大敵獣脂は殆ど出てしまってるし、全体の量が何しろ一人半本分ですからね。バチは当たらないでしょう。コレだけで二人でビィノ一本やっつけるのに充分のオツマミです。少々渋いビノでも、酸っぱいやつでも、これとアセイトゥナス(aceitunas=塩漬けオリーブの実)があればもう言うことなし。スペインの人が見たらビックリの小さいかけらになってしまったチョリィソをチビッと齧ってはグビグビ。

スペインの人達は普通コレは生で食べるか、マメと煮込んだりするようです。でも、そうすると脂肪分は100%取り込むことになりますね。

R特製コミーダはこの小片と化したチョリィソをクアトロ・ケソ(四種のチーズ)という商品名のピザの半製品の上に並べてオブンで焼き上げます。赤ワインは勿論、小麦のランチ・ビールにもピッタリで、言う事なしのコミーダ(昼食)の出来上がりー。



直径18センチ一枚が二人前、野菜は一人前。チーズの上にチョリィソを並べて焼き上げるとピザの上にはさらに油がたまりますからキッチンペーパーに吸い取ってしまいます。スペインの人で、これほど気を付けて食べている人は恐らくいないんじゃないか、多分、コリヤなんだ、と言うでしょうね。でも、ハモーナ(パンパンにお肉のついた人、特に女性)にならないためにはこのくらいの努力はしなくちゃ。***

「絵タイルの駅」の巻

コレを書いている今日は2月23日ですが、またしてもイベリア半島の北半分では雪が降りしきっているようです。カアディスでも朝のうち少し雨が降りましたが、それも2時間ほどであがり後は何時もの通り暖かい日差しが戻っています。

全国ニュースでしきりに各地の大雪の模様を流しているのは、如何に今年の気象が異常かという事でしょう。テレビで各地の古老が話すのを見ると、こんなことは何十年ぶりか、と一様に言っているようです。

スペインだけでなく世界中各地で異常な降雨があつたり、ドカ雪があつたりとにかく狂ってますね。自然現象も人事も地球は終末に向いつつあることを示していると、再び思わずにはおれません。

サテ、今日はヘレス・デ・ラ・フロンテーラ(Jerez de la Frontera)の続編です。この町一番の呼び物は多分、王立馬術学校でしょう。その他に旅行案内に出ている見ものとしては、ヘレス(シェリー酒)のボデーガ、時計博物館、カテドラル、アルカサルなどです。馬術学校とボデーガについてはもう去年お話ししたので今回はパス。カテドラルもどの街にも夫々あって代わり映えしないし、時計博物館は私達自身そんなに興味がありません。

そこでボカディーヨの昼食の後はアルカサル(Alcázar)に行ってみました。アルカサルとアルカサバ、この二つはスペイン各地で良く見るものですが、違いは何か？手許の辞書で見ると限りはあまりハッキリしません。

Alcázar : ① 城、砦、(アラビア風の)王宮。② (船舶)船尾楼。

Alcazaba : ② (城郭都市内の)城、砦。

こんな具合です。当てずっぽうですが、強いて言うなら純粋に戦闘のためだけの城がアルカサバ、王宮を兼ねた城砦がアルカサルなのではないでしょうか。

そう多くを見たわけではありませんが、例えばグラナダのアルハンブラ宮殿隣接のアルカサバ、マラガのアルカサバ等は明らかに実戦向きで装飾的なところが殆どないと思います。この両方のアルカサバは山の上にあつて外敵と戦うには有利な場所です。それに較べると、写真でしか見たことはありませんが、セビージャのアルカサル等は

アルハンブラ宮殿には及ばないにしてもかなり精緻な装飾が施されているようです。

さて、ヘレスのアルカサルはどうでしょう。

*

結論から言ってしまうと、拍子抜け。アルハンブラ宮殿の百分の一も見価値のないものでした。ムーア人が造った当時のままのもので私達がその日見れたのは、風呂場の跡と城門の一部、モスク跡などでした。そのほかのアラブ時代の遺蹟は修復中で立ち入り禁止になっていました。

シーズン・オフのこういう所は、すいているのはいいんですが、その反面、客の多いオン・シーズンには出来ない修復工事を集中的にやるので、どこへいっても立ち入りのできない個所があって要注意です。私達は客の少ないシーズン・オフを狙って行動するのでそういう目には良く会っています。

わずかに良かったのは、塔の上に据えて全周を見渡すカメラの映像を、大きな皿状のスクリーンに映し出して見せる装置があったことです。

この装置はカアディスの「タビラの塔」でも見たことを最初のカアディス探訪記でお話しましたが覚えてますか？ 初めての町へ行って、手っ取り早くその町の全貌を知るには乗合観光バスとともに、格好の手段です。

では、駆け足でアルカサルの写真を幾つかご覧下さい。



アルカサルの中庭、何となくミニ・アルハンブラという感じはありますが、規模も豪華さも本物のアルハンブラには到底及びもつかないものでした。そのかわり構内には見物客は一人も見当らず、全くの借り切り状態でした。



上の二枚はアラブ風の浴室。天井の星型は明り取りです。これと全く同じ物がアルハンブラ宮殿にもありました。あらゆる所がミニ・アルハンブラ。



オリーブ油を絞るのに使ったという装置。左の梃子の長さは10メートルもある大掛かりなもの。これはアラブ人の残したものではない筈。比較的新しいものでしょう。



パノラマ・カメラがある塔から見たアルカサル構内のモスク(左)と、すぐ前の隣地にあるカテドラル(右)。どうもこの手の建物にはあまり魅力を感じません。



さて、それでは今日の本題、ヘレスの国鉄駅です。写真がちょっとギラギラした感じでスッキリしませんね。駅前の小さい広場の端に立ってもまだ近すぎて全容を小さくまとめて撮ることが出来ませんでした。さらに、なるべく広い範囲をA4縦置きに収まるように無理矢理サイズを縮小したのでこうなってしまいました。ワイド・コンバージョン・レンズがほしいところ。

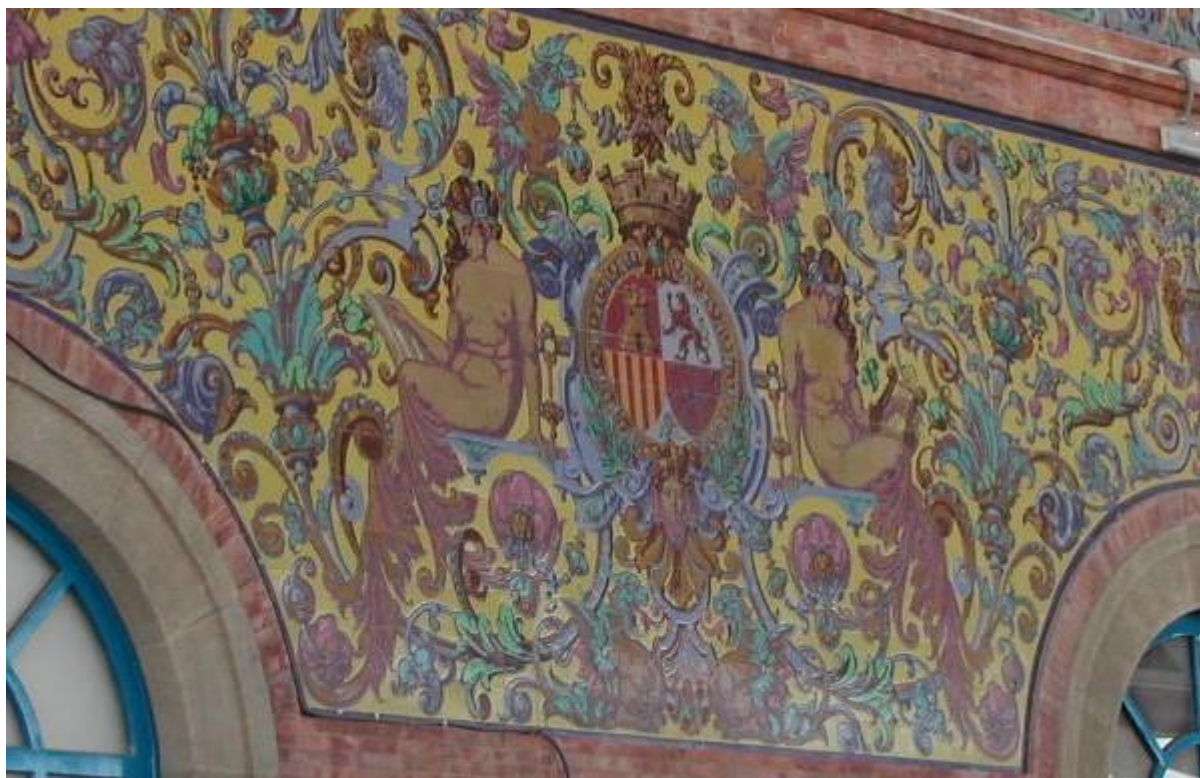
言い訳はそのくらいにして、どうですかこの駅舎。ナカナカ味があるでしょう？日本の旧国鉄駅にも良く見るとユニークないい味を持った古い駅舎が有りますね。カテドラルのような宗教の力を誇示する重苦しい建物より、こういう実用的で且つ洒落た自由な発想のデザインのほうがナンボカ好ましい、と思います。このヘレスの駅は家探しのためカアディスへ往復していた頃初めてここを通りかかったとき、アッと思いました。その時は電車の窓からですから、プラットフォーム側しか見れませんでした。カアディスにすむようになったら一度是非全貌を見に来ようと思っていました。今回のヘレス訪問の大事な目的の一つでもあったのです。空港にもバスにも日曜大工にもアルカサルにもガッカリでしたが、駅は二重丸。



細部を見るとこの通り。写真では見分けられませんが、コレは壁に画いた絵ではなくて、一枚一枚が約14センチ角のタイルを貼り合わせたものです。詳しく知っているわけではありませんが、多分、マズ下絵を画いてそれをタイル一枚分ずつに切り分けて書き直して焼き上げ、それを壁に貼り付けたものでしょう。

駅舎全体で何枚になるのか。多分一万枚は軽く超えると思います。その一枚一枚全てが違う図柄なんですね。大変な労力です。費用も大変。





上の写真をよく見るとタイルの継ぎ目の線がかすかに分かりますが、どうでしょう。特に真中の紋章の部分が分かりやすいと思います。



トイレだってこの通り。こんなキレイなトイレなら誰だってキレイに使いますね。



欧州各国の駅舎で、重厚、壮大、優美、豪華、なんていう言葉が似合うものは幾つか

見たことがありますが、こんなカラフルなものはコレが初めてです。

この最後の写真の下のほうにレンガの枠に囲まれた正方形の部分がありその真中へんに左は AÑO(アニョ=年)、右は 1930 と書いてあります。コレはこの駅舎が出来た年
なんでしょうね。

私達が駅の周りをウロキョロして、写真を撮ったりメモったり、反対側のプラットフォームへ行ったり又帰ってきたりしているのはかなり目立ったと思います。

私達が乗るカアディス行きの近郊電車はだいぶ前から一番駅舎寄りの四番線に止まっていたいました。そろそろ発車の時間が迫ったので、私達が乗り込もうと電車の前のほうに歩いていいたとき、途中の乗降口から一人の男が話し掛けてきました。

「英語話しますか？」　と言うんです。年のころは50前後ぐらいでしょう。

ええ、少しなら。するとその男はヤオラ身分証明書を取り出して、「私はこの通りメンサーケ(Mensaque)というものですが、さっきからあなた達を見ていました。この駅が気に入りましたか？」　ええ、トテモいいと思います。特にタイルの絵が素晴らしい。すると、メンサーケ氏は嬉しそうに、「このタイルは私の祖父が造ったのです」と言うではありませんか。へんな東洋人が駅のアチコチのタイルを珍しげに見て歩いて写真を撮ったりしているのを見て黙っておれなくなったんでしょうね。

その時は、そのまま握手して別れてしまいましたが、もうちょっと深く話を聞けばよかったと悔やまれます。彼の英語がもう少し流暢なら、または私達がもうちょっとスペイン語を話せたら、話も弾んだだろうに惜しい事をしたと思います。

その時は私達も気づきませんでしたし、メンサーケ氏も触れなかったんですが、その後もう一度行って良く見たらタイル絵のアチコチに Mensaque Rodoriguez という名前が入ったタイルがはめ込んでありました。これが多分オジーサンなんでしょう。

そしてメンサーケ氏は多分オジーサンの名前をそのまま譲り受けたんですね。

あの絵タイルをHPで日本に紹介したと言ったら喜ぶだろうな。今週号をプリントして持って行ってあげたい。でもどこへ行けば会えるのか、どこに住んでいるのかわからないんです。せめてメール・アドレスでも交換しておけばよかったな。***
